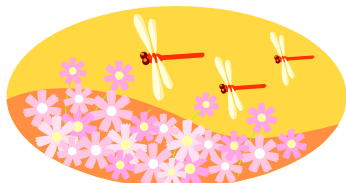


LIFE TIMES



平成21年9月1日（火）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : 陸運事業本部ソリューション部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 中島 英男
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第83号

【目次】

1. 防災体制強化による通報訓練実施
2. 新・総合物流施策大綱(2009-2013)閣議決定(7月13日)
3. 海上コンテナ国内輸送、3軸問題の動向について
4. 最適出荷場所検討ツールについて
5. 衛星場所自慢 Part2
～第15回 中央化学中部配送センター～
6. SCMソリューションフェア2009
7. 第20回設計・製造ソリューション展



1. 防災体制強化による通報訓練実施

三菱化学物流では、物流リスクへの対応として防災体制の強化に取り組んでいます。従来より危険物の輸送中の事故を想定した通報訓練を毎年実施していましたが、本社、場所(支社・油槽所・営業部)、荷主との連携をより強化するために、平成20年に特に危険性の高い品目を選定し、全場所で実施する「通報訓練3ヵ年計画」を作成し、取り組んでいます。

1年目は、荷主と連携し、漏洩事故発生時の的確な情報の流れと場所・本社事故対策本部の機能を確認、体制強化を図りました。2年目の今年は、遠隔地で発生した事故を想定し、場所の防災隊が現地に駆けつける通報訓練と本社地区全部署参加による本社事故対策本部機能の充実を図ることを目的に実施しました。又、この通報訓練以外にも荷主の要請による個別の通報訓練も実施しています。

(通報訓練 3ヵ年計画)

年度	時期	場所	品目
平成20年度	7/30実施	尼崎	液安
	3/18実施	九州	EL混酸
平成21年度	5/28実施	川崎	アクリルアミド
	7/29実施	鹿島	フェノール
	2月	中部	アクリル酸
平成22年度	5月	四国	液安
	7月	中国	アクリロニトリル

(荷主との通報訓練の様子)

当社は、「安全・QAは物流業務の全てに優先する」RC方針の下、物流トラブルゼロを目標に活動していますが、万が一事故が発生した場合を想定し、防災体制の強化を図っています。通報訓練を通じて、荷主の皆様へ信頼される「安心、安全」な物流企業を目指しています。



2. 新・総合物流施策大綱 (2009-2013) 閣議決定 (7月13日)

前回の大綱 (2005-2009) では、「スピーディでシームレスかつ低廉な国際・国内一体となった物流の実現」「グリーン物流など効率的で環境にやさしい物流の実現」「ディマンドサイドを重視した効率的物流システムの実現」「国民生活の安全・安心を支える物流システムの実現」の4つの目標を掲げて、総合的な物流施策を実施し、その結果諸施策の効果が発揮されつつあります。

今回の策定では、その後の物流をめぐる状況を考慮した上で前回の大綱を見直し、環境負荷軽減を旗頭としており、物流事業者のオペレーション負担の軽減に力をいれています。大綱の内容は、①アジア諸国などに分散する事業拠点間の輸送コスト低減など「企業のサプライチェーンのグローバル化」を背景とした「グローバル・サプライチェーンを支える効率的物流の実現」、②京都議定書の第一約束期間の開始/ポスト京都議定書の動向を踏まえた環境対策の必要性を背景とした「環境負荷の少ない物流の実現等」、③トラックの重大事故防止、海上輸送路の安全確保などの「安全・確実な物流の確保に対する要請」を背景とした「安全・確実な物流の実現等」の3つを基本的方向性の柱としています。

具体的な施策として、①では、スーパー中樞港湾プロジェクトの充実、産業港湾インフラの刷新、港湾関連手続の電子申請化、航空貨物ネットワークの拡充など、ハード・ソフト両面からの取組みを行う。②では、幹線物流全般に亘る物流結節点の集約・再配置、巡回集荷など物流結節点と末端との間の集配の効率化の推進、共同輸配送や往路と復路を組み合わせた輸送効率の向上を目指す。③では、利用運送事業者と実運送事業者との連携強化、大型トラックの車両安全対策・運行管理の徹底、航行安全の推進や海賊行為への適切な対応などを推進する。以上ようになっており、毎年度実施状況のフォローアップが行われます。

3. 海上コンテナ国内輸送、3軸問題の動向について

海上コンテナ (以下、海コン) の積載量について、日本の国内輸送における法規制が輸出の障壁になっているという批判が世界各国から集まり、1998年に道路交通法が改正されました。「20フィート-24トン、40フィート-30トン」と、それぞれ最大積載量が緩和され国内道路の走行が認められましたが、この規制緩和に伴い“2軸シャーシの軸重規制”についても緩和が必須でした。しかし道路局はこれを認めず、海コンのフル積載走行には“3軸シャーシの使用”を条件としました。当時の“3軸規制”に関し、国交省は、海コン輸送業者への負担を考慮して10年間の猶予期限を設け、しかるべき改造を施したものについては既存の2軸シャーシでの輸送を認める特例措置を講じました。

2008年3月末、当該規制に関する特例措置の猶予期限が訪れ正式に規制が施行されましたが業界内で特例措置再延長への期待があった (期限延長措置の要望を出していた) ことや、各事業者における3軸シャーシ導入必要性の見極め検討に時間を要したことなどから、業界全体として対応の遅れが生じました。更に国としては想定外とも言える、法定の軸重基準を満たす2軸シャーシが登場したことを受け、国交省は2009年2月「軸重が基準内である2軸シャーシ」を正式に認可しました。この決定に関しては、すでに3軸対応を済ませた事業者からの猛反発があったなどの他、一部では従来の2軸シャーシが許可された等の誤情報が伝わり、業界内に混乱が生じた部分もあった様です。

当社事業における海コン輸送の状況としては、規制対象となる全ての輸送について3軸シャーシに対応済みですが、この問題に限らず、当社は責任をもって法令遵守に努めています。



4. 最適出荷場所検討ツールについて

今回は、最適出荷場所検討ツールについてご紹介いたします。

このツールは、様々なパターンの物流コストを解析し、荷主に提供できるツールとして開発しました。

ツールの概要は以下の通りです。

- ①対象となる出荷場所から顧客までの一貫の物流コストを算出します。
- ②区域トラックや特別積み合せ便の輸送手段別に算出します。
- ③料金設定は輸送便別、倉庫別に任意で設定できます。(図1)
- ④様々な輸送ルートのパターンで物流コストをシミュレーションできます。(図2)

このシミュレーション結果を荷主に提供し、荷主は自らのニーズに合った結果を選択することができるようになりました。

現在はトラック輸送の物流コスト解析ですが、今後、他の輸送手段も追加します。更に、物流コスト以外にも省エネ(CO2削減)解析やリードタイム解析といった機能についても検討しています。

区分	市区町村名	発地名	荷姿	単位	転送		入庫		保管		出庫		在庫月数	区域トラック			路線
					単価	設定率	単価	設定率	単価	設定率	単価	設定率		月数	利用率	運賃	
倉庫	岩手県一関市	A	11	kg	0.700	100%	0.760	100%	0.700	100%	1.5	110%	東北	88%	103%		
倉庫	秋田県大館市	B	11	kg	0.500	100%	0.940	100%	0.500	100%	1.5	110%	新潟	85%	100%		
倉庫	埼玉県加須市	C	11	kg	0.510	100%	0.493	100%	0.514	100%	1.5	110%	関東	68%	98%		

(図1) 料金設定画面(画面一部)

最安値場所		A流通センター																										
		1次輸送								2次輸送																		
品名	金額	転送				倉庫設置				計				転送				SFP仕業				計	配送	合計				
		入庫	保管	出庫	計	入庫	保管	出庫	計	入庫	保管	出庫	計	入庫	保管	出庫	計											
総重量	8,685,401,099	1,808	354	0.7	350	2,4	1,200	0.7	350	1,900	2,654	65	2,466	1,233	1,023	514	4,061	20,001	1,023	516	3,000	4,333	区間トラック	515,512	54,771	16,5472	27,085	54,532
総重量	21,924,070,999	1,808	275	0.7	1,01	2,4	346	0.7	1,01	547	322	65	2,466	355,134	1,023	148,022	4,161	394,454	1,023	148,022	391,23	1,238,334	区間トラック	228,661	31,3	15,761	45,072	6,536
総重量	10,602,401,099	1,808	1,245	0.7	420	2,4	1,420	0.7	420	2,200	3,453	65	2,466	147,616	1,023	61,616	4,161	242,661	1,023	61,616	267,2	515,118	区間トラック	22,244	9,12	8,49	5,412	12,938
総重量	2,482,401,099	1,808	287	0.7	98	2,4	336	0.7	98	532	769	65	2,466	345,24	1,023	143,821	4,161	536,41	1,023	144,481	356,61	1,202,04	区間トラック	20,678	29,78	16,321	41,661	6,168

(図2) シミュレーション結果画面(画面一部)

5. 衛星場所自慢 Part2 ~第15回 中央化学中部配送センター~

中央化学中部配送センターは、当社が物流業務を全面受託している中央化学社の中部地区における配送拠点として、2004年4月に愛知県小牧市にて受託業務を開始し、さらに中部圏の配送の効率化及び機能強化を図るため、今年3月に岐阜県関市に移転した当社の拠点です。

関市は刃物の町として有名であり、鎌倉時代に戦乱の続く都から逃れた刀匠の一部が刀作りに欠かせない良質の土と水・炭を求めてこの関市に移り住んだのが始まりで、現在も刃物作りが盛んに行われています。また、岐阜県に生まれ全国を行脚しながら、通説では生涯12万本もの木仏像を彫ったといわれる円空上人が晩年を過ごしたのが関市であり、市内各所には刃物に関する記念館や円空ゆかりの神社・仏閣がいくつもあり歴史を感じさせる場所です。

他に「日本の道百選」にも選ばれ、6月~7月にかけて約7万本ものアジサイが咲き乱れるアジサイロード(板取川沿いの県道52号線)と呼ばれる24kmにも及ぶ美しい街道があり、期間中には県内外から観光客が訪れる人気のスポットとなっています。

関市に限らず岐阜県は、夏はキャンプ・釣り、冬はスキーとレジャーのメッカで自然豊かな場所で、さらに山の幸も豊かで水もきれいです。その代表として「高賀の森水」というのがありますが、これはマラソンの高橋尚子さんがシドニーオリンピックの時に給水として使用された事で有名になりました。試しに一度飲んでみては如何でしょうか?



刀鍛冶



円空仏



アジサイロード

6. SCMソリューションフェア2009

2009年5月21～22日の2日間、東京ビックサイトにて、日本ロジスティクスシステム協会主催の「SCMソリューションフェア2009」が開催されました。「SCMへの挑戦と未来～環境・グローバル・トレーサビリティ～」をメインテーマに掲げ、企業のSCM構築を支援する各種ソリューション情報が一堂に会する展示会です。昨今の不況と新型インフルエンザが影響してか、出展社数、来場者数ともにやや小さくまとまった感はありましたが、それでも、システム・サービス等の導入事例・ソリューション情報を発表するプレゼンテーションセミナーは立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

プレゼンテーションセミナーでは、いずれも「物流業務の“見える化”への工夫」をアピールしている点が印象に残りました。中でも、物流現場や生産現場を3D動画を使ってPC上で表現するシミュレーションソフトは“見える化”のツールとしては非常にインパクトがありました。このソフトでは、現場の作業工程やレイアウト、フォークリフト等の機器台数や人数等の様々な条件設定をすることで、現状や改善後の作業現場を3D動画で表現させ、作業上の無駄やロスを解析することができるソフトです。何より「視覚に訴える」ことが出来るという点で、プレゼンテーションツールとしてもかなり有効ではないかと感じました。

他にも、「RFIDを使用した物流センター内のパレットの枚数や場所の管理等、機材管理の見える化事例」「ハンディーターミナルを使用して庫内の作業進捗の見える化を実現させるWMS（倉庫管理システム）」等、様々な“見える化”の為のツールや事例を直接見聞きすることが出来、大変参考になりました。“見える化”を実現することは、業務のオペレーションを向上させ、現場を強くすることに繋がります。我々もこれらのIT技術を前向きに検討し、取り入れることで、“見える化”へのソリューションを提案していきたいと思えます。

7. 第20回設計・製造ソリューション展

2009年6月24～26日の3日間、東京ビックサイトにて、リードエグジビションジャパン株式会社主催の「第20回設計・製造ソリューション展」が開催されました。「省エネ・省力化支援ゾーン」「SCM・ERP・生産管理システムゾーン」など10のエリアに過去最大の1,640社が出展し、活気ある展示会となっております。

展示会の名称からは一見物流とは関係ないように見えますが、前号でご紹介致しましたJAS I社の「OTRS」が「技術伝承ゾーン」に出展されているなど、業界の枠を超えて活用出来るような技術・ソフトが多数ありました。その中でも目に着いたのが、無線LANを使用し現場の作業をリアルタイムに把握出来る「工程管理システム」です。観た限りでは課題も多いようですが、試算・検証した改善案を現場で、スムーズに運用して行く為に役に立つ仕組みとして今後活用が期待出来るものと考えます。

芝のそよ風

ソリューション部 奥野昭二

◆厚生労働省から新型インフルエンザの「本格的流行」宣言が出されました。マスコミで取り上げられることが少なくなったからでしょうか、首都圏では一頃に比べマスク着用者を見かけることが少なくなりました。流行宣言を機に今一度危機感を取り戻し、うがい・手洗い・マスク着用を心がけたいと思えます。

◆さて、第83号の記事はいかがでしたか？本号では「最適出荷場所検討ツール」を紹介させていただきました。お客様の物流に関するお悩みを解決できるツールとして必ずお役に立てると思えます。インフルエンザにワクチンが必要なように、物流のお悩みに対するワクチンとなるように更なるツールの開発・向上に邁進して参りますので、何かお悩みがございましたら是非弊社にお問い合わせ下さい。